

デザイン科学の新展開 – 『デザイン科学辞典』 編纂に向けて –

平成 23 年 10 月 15 日(土)、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスを会場として、日本デザイン学会 デザイン理論・方法論研究部会 (DTM) の 2011 年度活動:「デザイン塾:“デザイン科学の新展開” – 『デザイン科学辞典』 編纂に向けて –」が開催されました。本活動は、DTM、日本機械学会 Design 理論・方法論研究会、日本設計工学会 設計理論・方法論に関する研究調査分科会から成る「デザイン科学連合 (Design Science Association、仮)」による主催、慶應グローバルCOEの共催により行われました。

はじめに、DTM主査の松岡より、細分化されたさまざまなデザイン領域に共通の「デザイン科学」の基盤構築の必要性和、デザイン科学の基盤を広く社会へ発信するための「デザイン科学辞典 (仮称)」編纂に関する説明が行われました。

つぎに、本活動のコアメンバである、日本機械学会 Design 理論・方法論研究会主査:村上存先生 (東京大学)、日本設計工学会 設計理論・方法論に関する研究調査分科会主査:綿貫啓一先生 (埼玉大学)、DTM副査:小林昭世先生 (武蔵野美術大学)、DTM幹事:氏家良樹先生 (慶應義塾大学)をはじめ、10名の参加者の方々により、本活動におけるデザイン科学 (Design Science) とデザイン学 (Science of Design) の定義および位置づけに関する議論が行われました。そこでは、デザイン科学が、デザイン行為およびそのために用いられる知識の両者を含む学問であること、一方、デザイン学が、デザイン科学をはじめとして、デザインに関連するあらゆる知識を包含する学問であること、という共通の認識が得られました。さらに、その場では、デザイン理論・方法論・方法の関係性、認識科学・設計科学とデザイン科学の関係性、形式知・暗黙知とデザイン科学の関係性など、デザイン科学に関するさまざまなテーマに対する活発な議論も行われました。

そして、デザイン科学辞典の編纂に関する詳細の説明が、氏家良樹先生より行われ、同辞典は Web 上での無料配布の形式をとること、同辞典への掲載項目やさまざまなアスペクトに基づく検索キーワードを、随時追記・修正可能な成長型のシステムとすること、2013 年の IASDR 2013 にて同辞典の英語版を展開予定であること、同辞典の編集・管理はデザイン科学連合により運営されることなどが、コアメンバにより了承されました。

さいごに、松岡より、デザイン科学に基づく新たなパラダイムの一つである「タイムアクシス・デザイン」に関する書籍編纂の予定について説明が行われ、デザイン科学連合内で原稿の公募をおこなう旨の依頼がなされました。



会場の様子



村上存先生



綿貫啓一先生